



2017年1月期  
第1四半期決算説明資料

**ベステラ株式会社**  
東証マザーズ(証券コード:1433)

# 本資料についてのご留意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

ベストセラ株式会社



# 目次

---

会社概要	4
決算説明	11
ロボット開発について	21

---

会社概要	4
決算説明	11
ロボット開発について	21

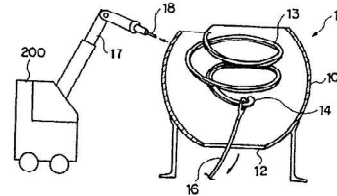
# 会社概要

商号	ベストセラ株式会社 / 日本語表記 BESTERRA CO., LTD / 英語表記
事業内容	プラント解体工事、その他関連事業
所在地	本社：東京都墨田区江東橋四丁目24番3号 千葉事務所：千葉市中央区川崎町1番地 西日本事務所：広島県福山市南手城町三丁目10番27号
設立	1974年2月20日
資本金	407,196,100円(2016年4月30日現在)
代表取締役	吉野佳秀
従業員数	53名(2016年4月30日現在)

# 会社の沿革



- 2015年9月 東証マザーズ上場 ●
- 2015年1月 プラント構造計測に特化した「3D計測サービス」に参入 ●
- 2013年1月 人材不足に対応するため「人材サービス」に参入 ●
- 2010年4月 ロボット解体「りんご☆スター」開発 ●
- 2007年9月 火力発電所等の「ボイラの解体方法」の特許取得 ●
- 2004年11月 特定建設業許可取得 ●
- 2004年7月 「リンゴ皮むき工法」の特許取得 ●
- 1974年2月 「ベストセラ株式会社」設立 一般建設業許可取得 ●



本社ビル



# ビジネス コンセプト(基本的概念)

---

1

## つくった人には壊せない

私たちは、「壊すときには造ったときの逆をやればよい」という思い込みに『NO!』と言うことからスタートしました。

建造のプロセスを単に逆にたどるのではなく、まったく新しい視点でプラント解体を発想する。そして、その発想を実際の工事を通じて検証をおこない、新たな技術・工法として確立し、更には特許工法という形で完成させてきました。

2

## プラント解体に特化したオンリーワン企業

高度な技術力を必要とする鋼構造物の「プラント解体工事に特化」し、約40年間、製鉄、電力、ガス、石油などの高い安全性が必要なプラント解体事業を展開してきました。

プラント解体工事において、必須と言える特定化学物質、PCB、アスベスト、ダイオキシン、土壌汚染などの環境関連対策工事の実績を積み重ねています。

日本の基幹産業である重厚長大なプラントを解体するリーディングカンパニーとして、社会的ニーズにお応えすることで、自らの責任を全うし、社会貢献に取り組んで参ります。

# 企業理念、行動規範

## 企業理念

柔軟な発想と創造性、それを活かした技術力により地球環境に貢献します。

## 行動規範

プロとしての責任を果たします。

我々は常に新しい技術を生み出し、「安全を何よりも優先」し、「より早く、より安く、より安全に」を合言葉に、さらに安心を加えて、お客様に提供します。



ガスホルダー（リンゴ皮むき工法）



火力発電所（リンゴ皮むき工法）



# ビジネス モデル(事業系統図)

- 1 大型プラント解体の要の役割  
エンジニアリング(提案・設計・施工計画)  
マネジメント(監督・施工管理)
- 2 実際の解体工事は、外注先が行い、  
当社は主に現場の監督・施工管理を行います。
- 3 (持たざる経営)  
工事用重機や工事部隊を保有しません。  
→資産保有リスクを回避  
材料などの仕入・生産取引は存在しません。  
→在庫リスクを回避



# 当社の強み

1

## 優良な顧客基盤

製鉄、電力、ガス、石油等の大手企業のエンジニアリング子会社を中心とした優良な顧客基盤を構築しています。

2

## 豊富な工事实績に基づく効率的解体マネジメント

約40年間のプラント解体工事实績に基づく「プラント解体トータルマネジメント」を提供しています。

また、プラント内での工事のため、参入障壁は高いものとなっています。

3

## 特許工法等の知的財産

環境対策工事等に根ざした様々な技術やノウハウは、顕在的または潜在的に知的財産としての強みを持っております。

特筆すべき知的財産は、解体工事会社として他社に類のない数を保有する特許工法です(取得済14件、申請中5件)。

また、発生材等の再資源化に関する豊富な知識も有しています。

---

会社概要	4
<b>決算説明</b>	<b>11</b>
ロボット開発について	21

# 決算のポイント

売上高

**895**百万円

(前年比▲30.2%)

受注残高

**3,016**百万円

(前年比362.9%)

・売上高は、前年同期比30.2%減の895百万円となりました。これは、当第1四半期会計期間に完成する工事が前年に比べて少なかったため、実際には工事を行ってはいるものの、収益の計上時期にズレが生じているためです。

・受注残高は、前年同期比362.9%増の3,016百万円となりました。前第1四半期会計期間は、前期繰越受注残高を削って売上を計上しましたが、当期は順調な受注活動に支えられて収益を計上したことで、堅調な受注残高を維持しています。

・通期の業績予想に関しては、堅調な受注残高と堅実なプラント解体需要により、増収増益を見込んでおります。前回発表時からの変更はありません。

## 損益計算書: 第1四半期 (2017年1月期)

第2四半期以降に完了する工事が増えましたが、  
当第1四半期会計期間では減収減益となりました。

単位: 百万円

	2017年1月期 第1四半期	対売上高 比率	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	895	-	1,284	▲388	▲30.2%
売上総利益	200	22.4%	326	▲125	▲38.5%
営業利益	90	10.1%	248	▲158	▲63.8%
経常利益	91	10.2%	250	▲158	▲63.4%
四半期純利益	59	6.7%	156	▲97	▲61.9%

## 受注状況：第1四半期 (2017年1月期)

当四半期累計期間は順調な受注となりました。  
(受注残高362.9%増、受注高は90.3%増)

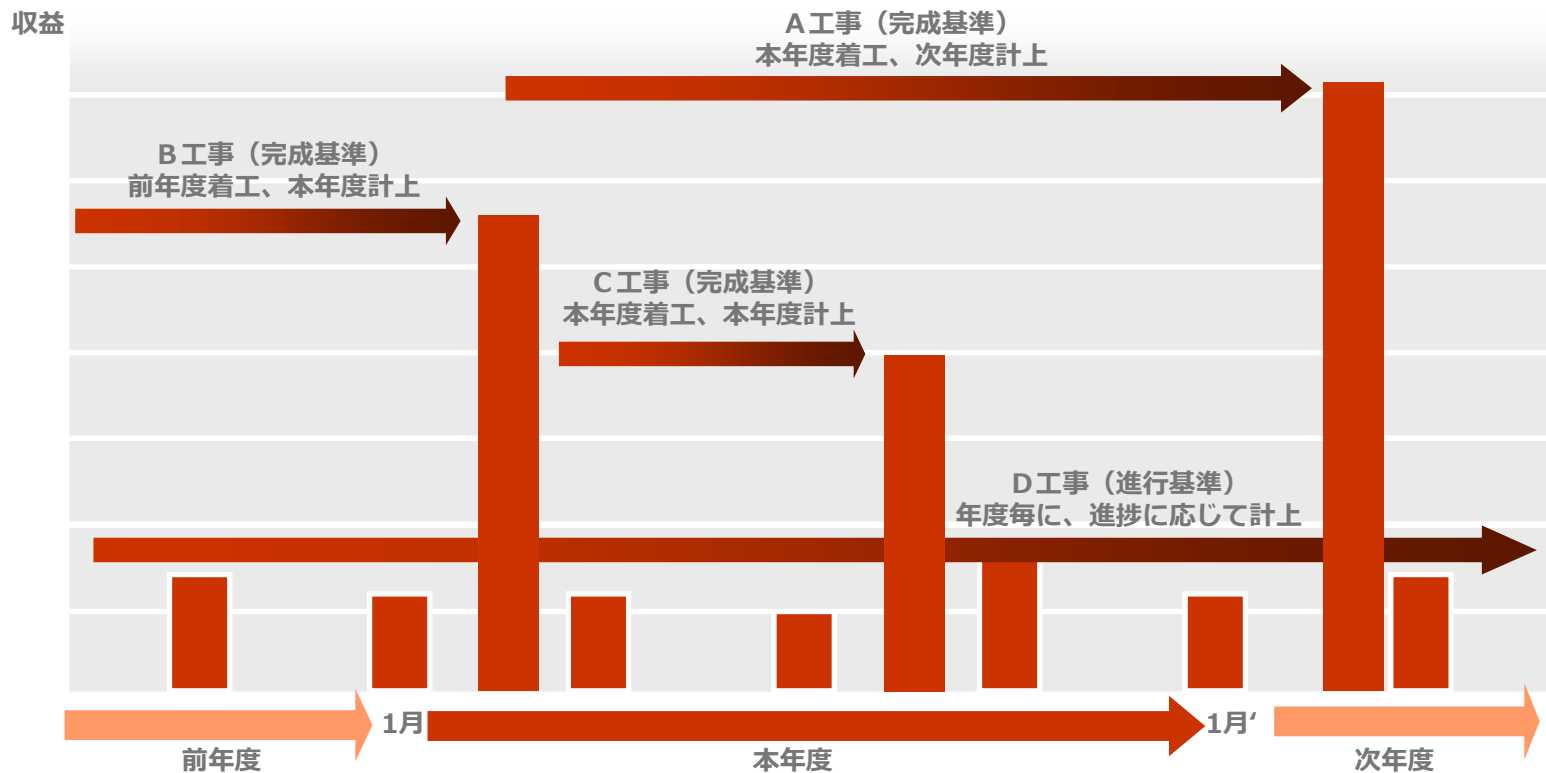
単位: 百万円

	2017年1月期 第1四半期	前年同期	増減額	増減率
期首繰越工事高	3,362	1,642	1,719	104.7%
受注工事高	531	279	252	90.3%
完成工事高	877	1,269	▲392	▲30.9%
期末繰越工事高 (受注残高)	3,016	651	2,364	362.9%

# 収益計上の変動について(進行基準と完成基準)

- 2つの収益計上基準
- ①進行基準:工事の進捗に応じて収益を計上する
  - ②完成基準:工事が完成した時に収益を計上する

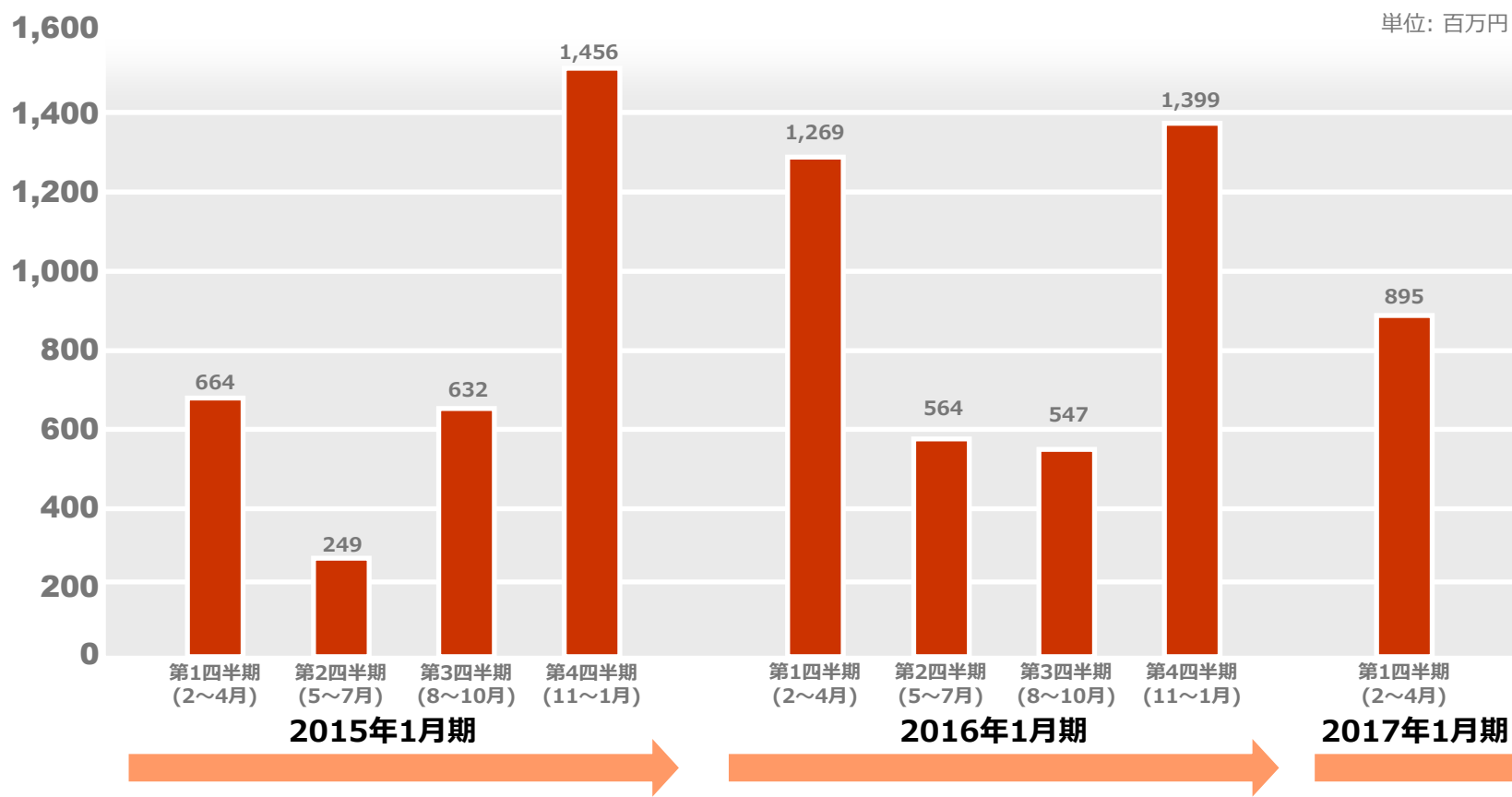
当社の解体工事の特性上※、多くの工事は**完成基準**を採用しております。そのため工事が終わるまで収益を計上できず、四半期ごとの損益にバラツキがあります。



※スクラップ等の有価物が一定以上発生するプラント解体工事は、工事の収益が最終のスクラップ売却時まで確定しないため、請負金額や工期にかかわらず完成基準を適用します。

# 完成工事高の季節的変動について

当社の売上高は、顧客(施主)の設備投資計画に応じた季節性があります。第4四半期及び、第1四半期に計上される割合が高くなる傾向があります。

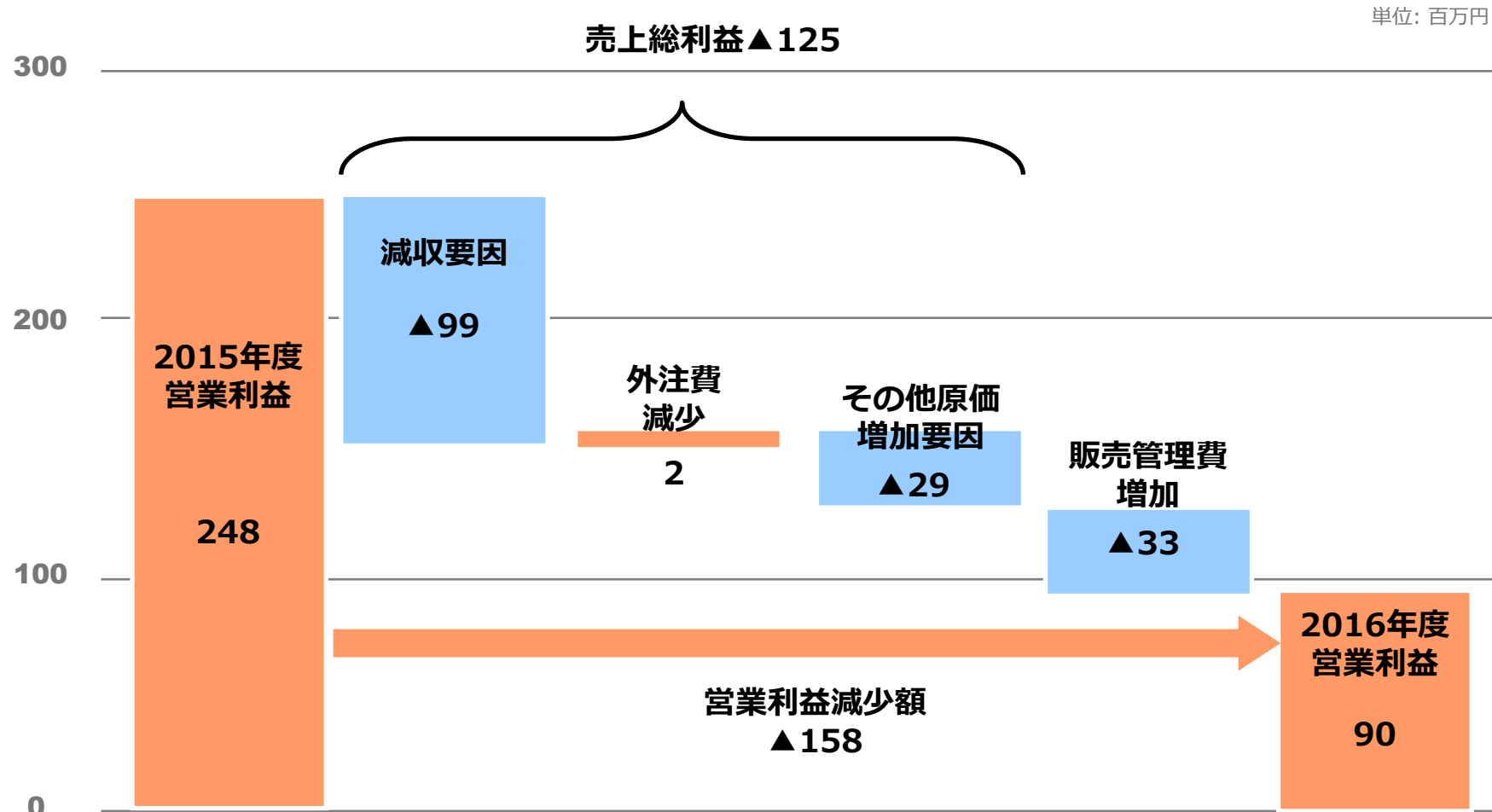


※今期は、大型の進行基準工事があるため平準化の傾向にあります。ただし、第4四半期会計期間に計上される割合は、例年通り高くなる見通しです。



# 営業利益の増減要因分析：第1四半期 (2017年1月期)

営業利益は前年同期比63.8% (158百万円)の減益となりました。



## 販売費及び一般管理費：第1四半期 (2017年1月期)

通期の計画通りに進捗しております。3D計測事業に関する研究開発等は第2四半期以降、積極的に推進いたします。

単位：百万円

	2017年1月期 第1四半期	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	主な増減要因
給与手当	28	24	4	16.0%	事業拡大のための人員増
支払手数料	8	3	5	161.9%	上場の維持費用
広告宣伝費	7	0	7	—	広告媒体の増加
減価償却費	6	5	1	22.4%	3D計測機器の増加
その他	61	45	16	10.5%	事業税の増加等
合計	110	77	33	42.3%	

## 貸借対照表：第1四半期 (2017年1月期)

最終利益の積上げ、新株予約権の行使により純資産が増加しました。  
工事の大型化に伴い、未完成工事の売上債権の比率が増えています。

単位：百万円

	当事業年度 2017年1月期	前年同期	増減額	主な増減要因
流動資産	2,677	1,660	1,016	大型工事の進行による現金預金の減少及び債権の増加によるもの
(うち現金預金)	(378)	(655)	(▲276)	
固定資産	414	401	13	3D計測機器の購入によるもの
流動負債	1,012	639	372	工事未払金の増加によるもの
固定負債	90	136	▲46	社債が流動負債になったことによるもの
純資産	1,988	1,285	703	新株発行による資本金及び資本準備金の増加
総資産	3,092	2,062	1,029	

## 通期業績予想 (2017年1月期)

過去最高の受注残高により、今期も増収増益を見込んでおります。  
前回発表時からの変更はありません。

単位: 百万円

	業績予想 2017年1月期	実績 2016年1月期	増加率
売上高	4,700	3,846	22.2%
営業利益	485	447	8.4%
経常利益	488	464	5.1%
当期純利益	313	292	7.0%
1株当たり当期純利益	114円	128円	—

2016年1月期実績「1株当たり当期純利益」2016年2月1日株式分割後数値

---

会社概要	4
決算説明	11
<b>ロボット開発について</b>	<b>21</b>

# 3D計測事業

## 5STEPアクションプラン

### IoT×解体

新しい社会価値の創出

設備計測

応用計測

解体・改修

データベース化 情報化施工




3D計測  
モデリング

高性能スキャナによる3D計測点群データ処理、3DCA Dデータへのモデリング



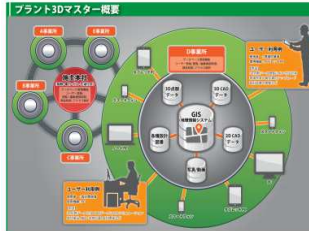
パーフェクト  
3D

航空レーザー・MMS・地上レーザー・海中ソナーによる既存施設の3次元一括計測



3D解体

工程の意思決定プロセスを改善する解体・改修シミュレーション



プラント  
3D  
マスター

プラント施設情報のクラウド一括管理システム



3D点群  
マップ  
ロボット

IOTによる自動運転(プラント監視、管理)・自律行動ロボット

計測(見る)

施工(壊す)

管理(IoT、自動化)

# 3D解体の実現を目指したロボット開発

当社は、「点群3D Map利用ロボット」を研究題目とした共同研究契約の締結に合意しました。



目的

本研究の目的は、3D点群マップを基に自律動作するロボットの開発を  
するものです。自律作動ロボットにおける自動プラント監視や自動施工、  
原子力発電所の解体への活用も視野に入れております。

期間

今回の契約による共同研究の期間は2017年3月31日までです。  
なお、開発全体は3ヶ年を予定しております。

# <参考資料> 3D点群MAPロボット 稼働イメージ

**1 3D点群マップの作成**  
 固定型レーザースキャナーによる複数回のスキャンで得られた点群データを合成する。

**2 自律移動・作業ロボットのプログラミング**  
 作業地点と基本経路をロボットに入力し、作業内容を指示する。

**作動プログラム**

- 切断などの解体動作
- 3D点群マップを利用して対象物へアプローチ
- 指定位置へ戻り、終了

作業ロボット参考イメージ

**3 コンピュータビジョンに基づいた自律移動・作業の実行**  
 3D点群マップによる基本経路において、コンピュータビジョンで検出した障害物を回避し、自律的に作業内容を遂行する。

視覚センサーからの奥行情報

インプット済みの3D点群マップ

**活用方法**

- 自動プラント監視
- 各種自動施工
- 原子力発電所の解体

視覚センサーから得られた奥行情報と3D点群の比較照合により、作業をリアルタイムで補正します。  
 人間が立ち入ることができない状況下で、自律動作による監視や施工を目指します。



